

2.18千鉄抗議・包囲闘争を突破口に 2.19-25助役機関士導入阻止闘争へ

日刊 動労千葉

81.2.17

No. 66C

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五(六)会室 三三三(七)三〇七

当局の露骨なスト破り策動を許すな

全ての組合員の皆さん！三月をまたずして、すでに歴史的決戦の火ぶたが切られた。わが動労千葉一三〇〇名のジェット延長阻止・三月スト貫徹のきつぱりとした宣言、何ものをもつてしてもうちくたくことのできない団結力と闘争態勢に不安をつのらせる国家権力と国鉄当局は、こともあろうに、明らかにスト破り策動にうって出てきた。すなわち、2月18日の午後、全国から二七名の「助役機関士」を千葉にかき集め、直ちに19日早朝より25日にかけて県警機動隊の配置をちらつかせつつ、成田・佐倉において線見訓練を強行せんとしている。われわれは、断じてこのようなスト破り策動を許す訳にはいかない。「本部」反動分子の卒先協力によって強行せんとするこの暴挙を総力で粉碎せよ！

成田支部乗務員分科会、
成功裡に開催
2月12日

三月ジェットストの鍵をにぎる成田支部は、二月十二日、支部乗務員分科委員会を開催し、この歴史的闘争の中心軸を担って闘いぬく決意と態勢を全員でしっかりと固めた。

委員会は50名の組合員が結集した講習室において、14時、座長に錦織氏を選出し開会され、高津支部乗務員分科会長より「ジェット闘争の拠点支部としての責務にこたえ、動労千葉第四回大会方針、支部大会決定をうけ、三月ストの中軸として闘いぬこう」との力強い挨拶をうけ議事に入った。

来賓として挨拶に立った、西森動労千葉乗務員分科会長、日暮支部長より各々、「三月ストこそ動労千葉結成の真価を発揮し、三里塚闘争勝利、日本労働運動の戦闘的再生をかちとる重大な決戦」「いかなる弾圧・妨害があろうとも全員ではねかえし団結を固め前進しよう。私はその最先頭で闘う」との決意が表明された。このあと檜垣支部乗務員分科事務長からの方針提起をうけ、質疑討論を経て、16時半、成功裡に終了した。

成田支部ではすでに反対同盟や支援労組との激励・交流等も活発につき重ねられ、三月ストの先頭に立つ文字通りの重機関車として意気高く、スト貫徹ノ決戦体制構築へむけバク進中である。

佐倉支部、職場集会をつみ上げ
三月ストへ向け前進
2月13日

三月ジェットストの最大拠点ノ佐倉支部では、今、国鉄当局と「本部」反動分子・土屋粹一派の完全に一体化したスト破壊策動と真向から対決し、全組合員の総力をあげた闘争態勢構築ノ組織強化拡大のための闘いが連日つみ上げられている。

2月12日より再開された「本部」派(裏切り分子・土屋粹一派)解体ノ組織強化拡大オログと並

行して開催された2月13日の第一回職場集会は、機関区講習室を埋め尽す八〇名の組合員の参加を得て、大きな盛り上りの中で勝ちとられた。

集会は、今関支部書記長を座長に選んだ後、堀口支部長の挨拶で開始された。堀口支部長は「連日の組織強化拡大闘争の前進に確信も固く、三月スト貫徹へむけ、拠点としての重責を全員の団結力で果たし切っていこう、自分は一切をかけてその先頭に立つ」との鮮明な決意を明らかにし全員の拍手がこれに応えた。

本部からは西森副委員長と布施組織部長が出席し、代表して西森副委員長から、三月ストライキ闘争を包む情勢と意義、当局と「本部」反動分子のスト破壊策動との対決の重要性、そして動労千葉三月闘争方針と二月総決起の課題等が詳細に提起され、全参加者が真剣にこれをうけとめ、直ちに各職場単位での全面的な討論をつみ上げていくことを確認した。

佐倉支部では、その成果を再び2月17日の第二回職場集会にもちより、討論の上にも討論をつみ上げ、一人の例外もなく万全の闘争体制と団結を築き上げるべく奮闘中である。そして、いよいよ2月19日より開始されるスト破り要員ノ助役機関士導入阻止闘争を圧倒的に勝ちとり、三月ストへと力強く前進していこうとしている。

当局・権力・「本部」反動分子のスト破り策動を粉碎し、三月スト貫徹へ！

全ての組合員の皆さん！いよいよ三月決戦は「助役機関士導入阻止」の連続した闘いをもって、具体的な火ぶたを切って落とした。

全ての組合員の皆さん！いよいよわれわれは決戦に突入する。成田・佐倉の仲間を先頭により一層の団結を強め、あらゆる反動・弾圧をはねのけ、労農連帯の正義にかけてこの決戦を勝ちぬこうではないか。